

健康経営とファシリティマネジメント

健康経営の基本から最新情報まで

UD研究部会＋健康経営タスクフォース

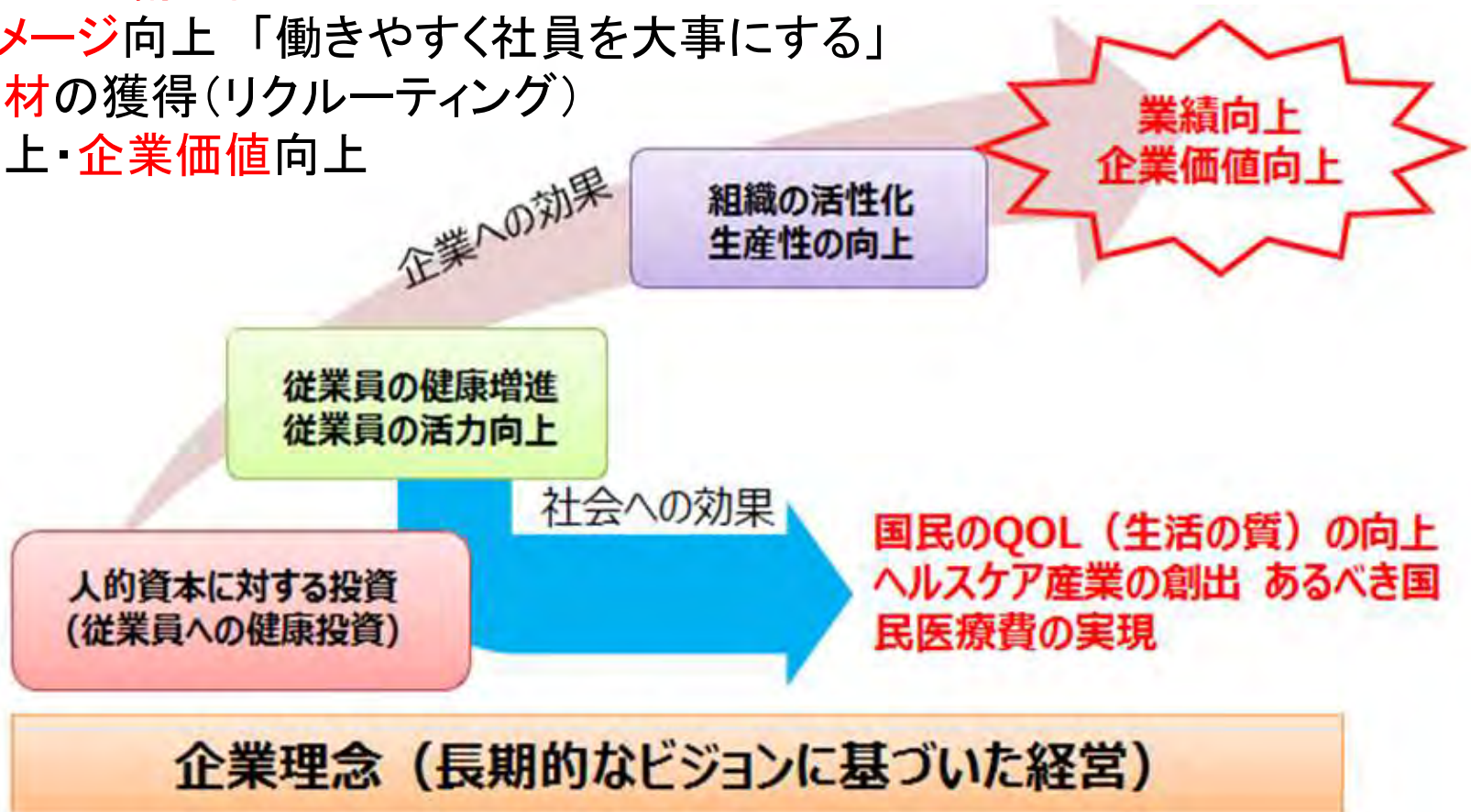
似内志朗(日本郵政)

健康経営の計り知れないメリット

- 健康経営とは何か
- 経済産業省がドライブ
- 健康経営とFM

健康経営とは何か

- ・健康経営は「経営資源としての社員の健康」への投資による**経営貢献**が目的。
- ・**コスト**ではなく**投資**。
- ・**アブセンティズム**（疾病などによる欠勤）削減
- ・**プレゼンティズム**（健康問題による生産性低下）削減
- **医療費**企業負担削減
- **生産性**向上・**創造性**向上
- **企業イメージ**向上 「働きやすく社員を大事にする」
- **有能人材**の獲得（リクルーティング）
- **業績**向上・**企業価値**向上



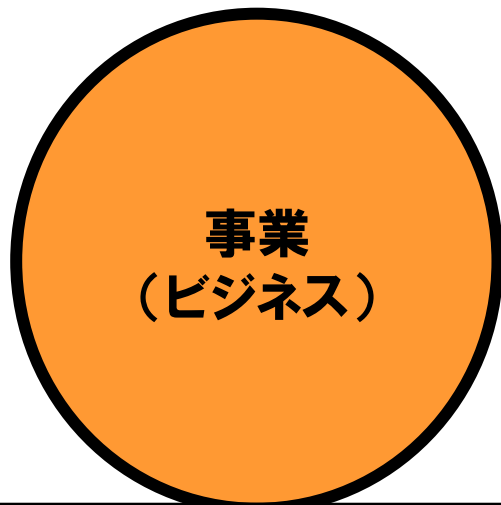
経済産業省がドライブ

- ・健康経営銘柄は、東証上場会社の中から「健康経営」に優れた企業を毎年選定。
- ・長期的な視点からの企業価値向上を重視する投資家に魅力ある企業として紹介。
- ・ホワイト500では、上場企業に限らず優良な健康経営実践の大規模法人を対象。
- ・2020年までに500社選定



健康経営とFM

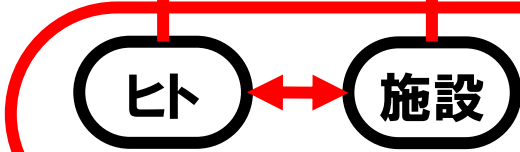
- ・経営組織は、例外なく、**事業(ビジネス)**と**経営基盤**から成る。
- ・経営基盤は、**人事(HR)**、**財務**、**IT**、**FM**の4つの**機能分野**から成る。
- ・FMは**経営基盤の機能のひとつ**。事業を支える縁の下の力持ち。



目的
組織の生産性向上
→業績向上
→企業価値向上
(企業によりアプローチは異なる)



経営基盤



経営資源

健康経営

WP改革

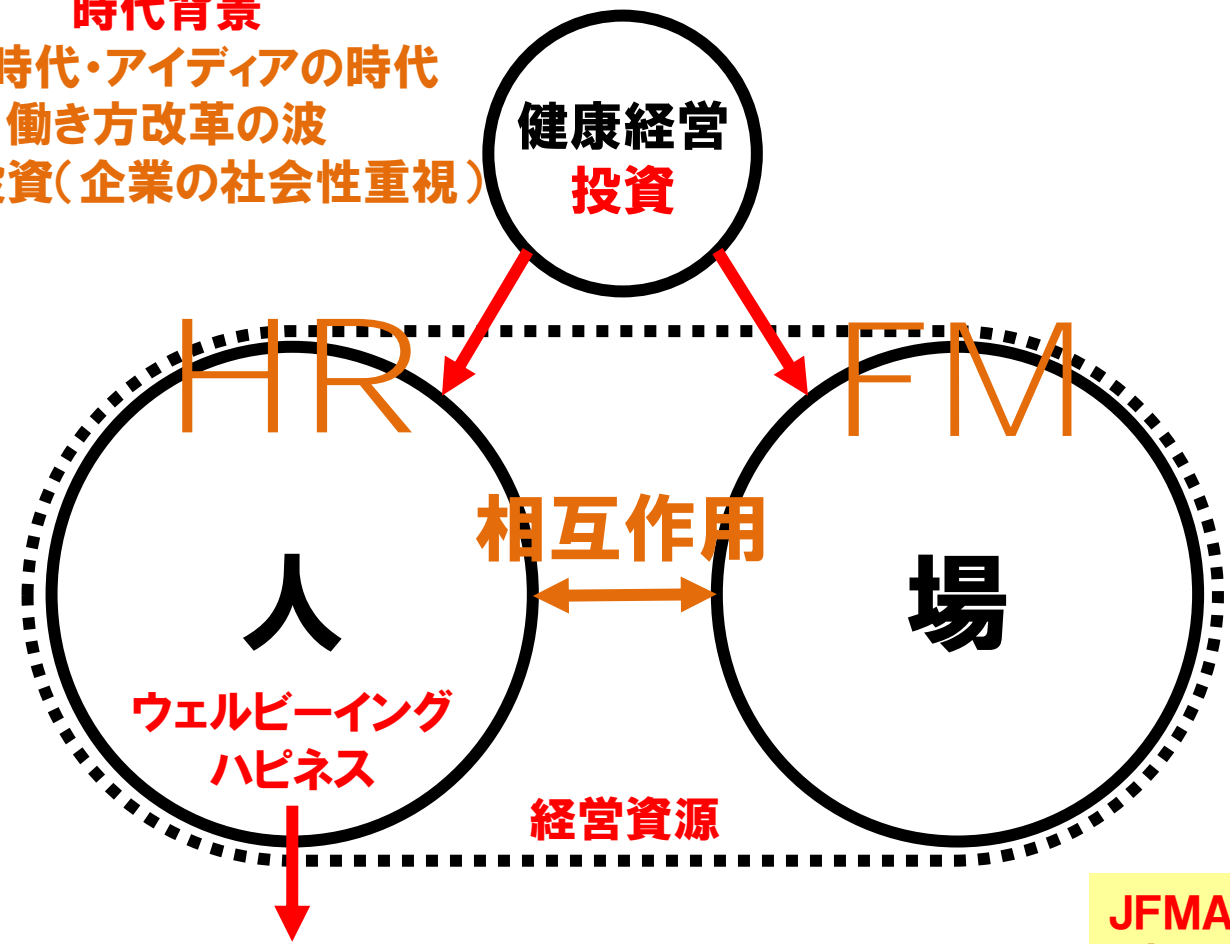
手段
経営資源・経営基盤
のシナジー

人と場の相互作用

健康経営 = 人と場: ワークプレイス・マネジメントのキー

時代背景

人の時代・アイデアの時代
働き方改革の波
ESG投資(企業の社会性重視)



- ### エクスペリエンス (JLL)
- ①エンゲージメント (思い入れ)
効率性重視だけでなく、多種多様な創造的空間
 - ②エンパワーメント (できる自信)
社員を信頼し、社内外で仕事ができる柔軟性
 - ③フルフィルメント (満たされ感)
創造性・幸福感を醸成するウェルビーイング空間、組織のしゅみ

- ### JFMA
- ・人と場へのFM投資研究部会
 - ・健康経営研究部会(予定)
 - ・知的生産性研究部会
 - ・ユニバーサルデザイン研究部会

知的生産性・創造性
(リターン)

どのくらいの投資対効果があるか

- ジョンソン&ジョンソングループ
- CBRE(WELL)
- 株価の推移

健康経営の投資対効果は3倍？

- ・ジョンソン&ジョンソングループによる投資効果試算
(社員11.4万人、世界250社を対象)
 - ・**投資**: 人件費、システム費、設備費(診療施設・フィットネス)、保健指導等利用費
 - ・**効果**: 生産性向上(アブセンティズム、プレゼンティズムの最小化)、医療費削減(疾病手当、長期的医療費)、モチベーション(ロイヤリティ)、リクルート効果(就職ランキング)、企業イメージ向上(ブランド価値、株価への影響)
- **投資対効果は約3倍**(ニューズウィーク誌2011)。

Johnson & Johnson

健康経営の投資対効果は3倍？

・従業員の健康維持に1ドル使くと、医療経費減少、病欠日数減少で約3ドル節約。

→ **投資対効果は約3倍**

(2010 Health Affairs Worksite Wellness Study)

STUDY FOCUS	Average ROI
Health Care Costs	3.27
Absenteeism	2.73

Medical costs fall by ~ **\$3.27** for every dollar spent on wellness programs and **absenteeism costs** fall by ~ **\$2.73**

- ・CBREロサンゼルス・オフィスで、**ウェル認証**取得のために従業員1人当たり約3,600米ドルの投資。従業員1人当たりのリターンは、1年目で3,000米ドル、2年目5,000米ドル、3年目6,000米ドル、移転後3年間合計14,000米ドルと試算。(WELL BUILDING STANDARD (Delos Living_WELL™ Office ROI))

→ **投資対効果は約3.6倍(3年で)**

WELL™ オフィスROIモデル



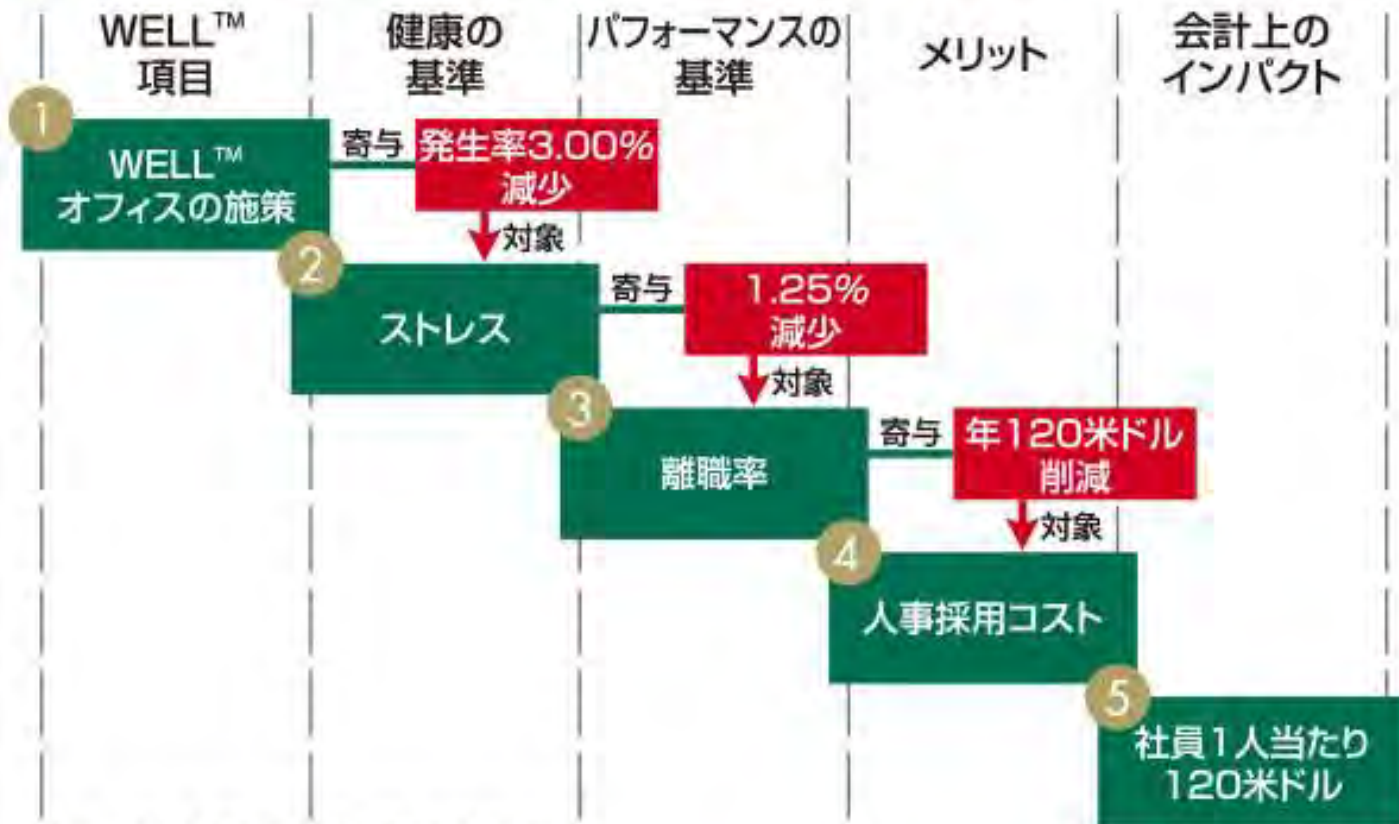
※従業員1人当たり20㎡、1㎡当たり\$100で計算

WELL BUILDING STANDARD

分野ごと、①項目⇒②健康への影響⇒③生産性指標⇒④メリット⇒⑤財務メリットを定量化する試み。

(WELL BUILDING STANDARD (Delos Living_WELL™ Office ROI))

WELL™ 項目と経営メリットの関係



オフィスの健康を促進することが
経営的メリットを促進する多数あるパターンの一例

- ・WELL BUILDING STANDARD (CBRE奥練太郎資料/出典: Delos Living WELL™ Office ROI)
- 7分野ごと、①項目⇒②健康への影響⇒③生産性指標⇒④メリット⇒⑤財務メリット

空気

- ①湿度管理
- ⇒②シックビル症候群発生率が4%減少
- ⇒③体調不良(にもかかわらず出勤)による低生産性状態が1.6時間減少
- ⇒④生産性への寄与1.6%
- ⇒⑤従業員1人当たり**\$79**のメリット

水

- ①塩化物とフッ化物の低減
- ⇒②発がんリスクが0.5%減少
- ⇒③医療費が\$37.39減少
- ⇒④健康保険コストの減少
- ⇒⑤従業員1人当たり**\$38**のメリット

食物

- ①食物と栄養に関する情報・教育
- ⇒②肥満リスクが0.5%減少
- ⇒③病欠が0.12日減少
- ⇒④生産性が0.05%向上
- ⇒⑤従業員1人当たり**\$38**のメリット

光

- ①窓のデザインと性能
- ⇒②健康の実感が40.21%向上
- ⇒③仕事への満足度が22.35%向上
- ⇒④生産性が2.01%向上
- ⇒⑤従業員1人当たり**\$1,583**のメリット

体を動かすこと

- ①運動器具の提供
- ⇒②脳卒中の発生率が7%減少
- ⇒③病欠が2.63日減少
- ⇒④生産性が1.05%向上
- ⇒⑤従業員1人当たり**\$776**のメリット

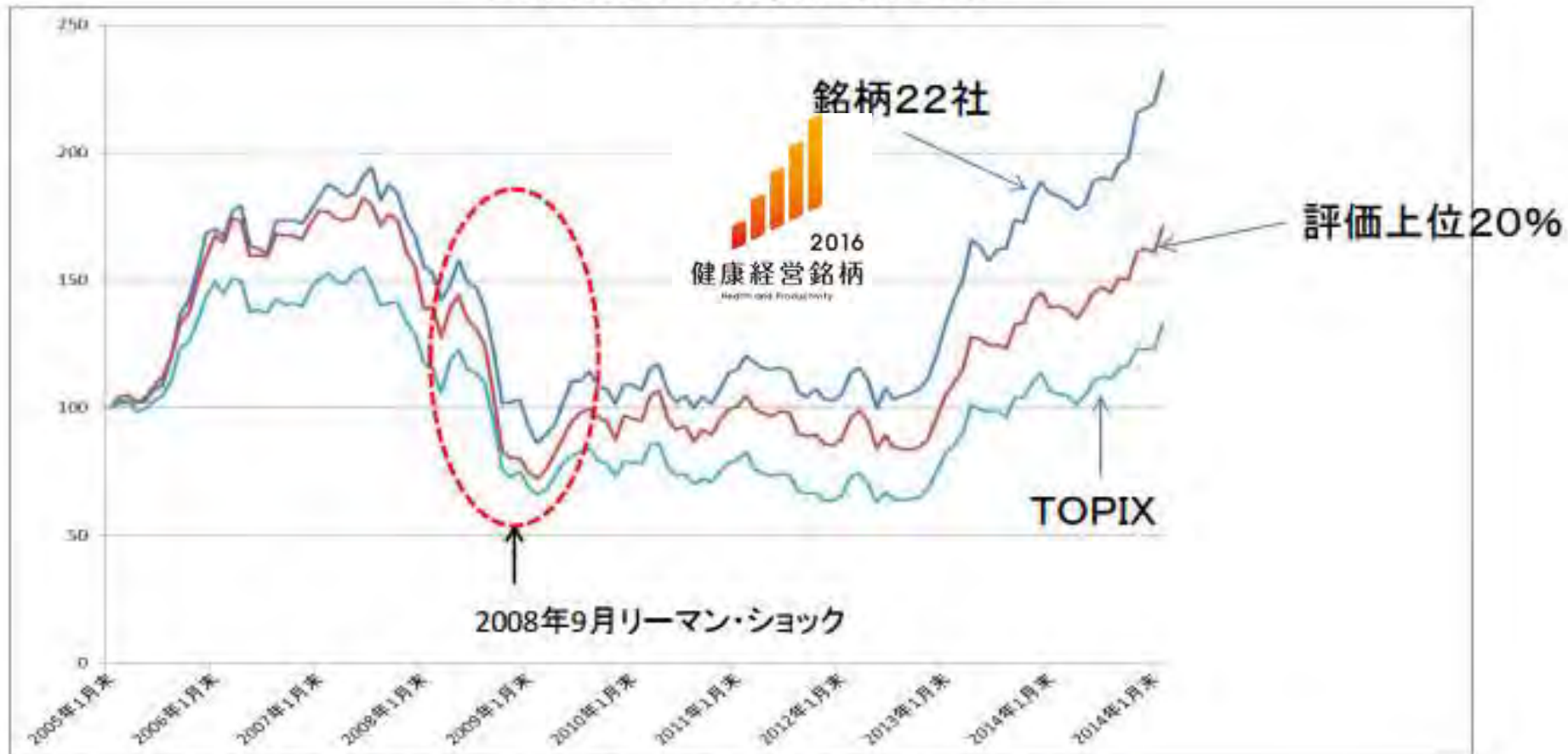
快適性

- ①エルゴノミクス
- ⇒②腰痛の発生率が27.5%減少
- ⇒③事故発生率が2.75%減少
- ⇒④医療費の減少
- ⇒⑤従業員1人当たり**\$908**のメリット

- 健康経営銘柄に選定された企業は企業価値を伸ばしている。
(経済産業省作成データ)

→ **株価で有意な差**

＜健康経営と株価連動の図＞



2014年11月「従業員の健康に関する取り組みについての調査」結果を基にして経済産業省が作成

※2005年1月末を基点100とし、2015年2月末までの各月末時点の各社の時価総額から指数を作成。新規上場など、基点のデータがない企業は除いた

環境と健康は次世代ビルの条件

- **ウェル認証**
- **WELLとLEED**
- **ESG投資**
- **国交省の新しい基準づくり**
- **「環境」と「健康」の比較**

THE
WELL
BUILDING STANDARD®

V1
February 2016



LEED



WELL



WELL

- ・ 使う人の健康や幸福を考えた建築・空間づくり推進が理念。
- ・ **働く人の健康や幸せ(well-being)**に配慮したワークプレイスを目標。
- ・ クリントン・グローバル・イニシアティブ2012（CGI2012）により発表。

- ・ 認証カテゴリー

- ・ 建物：コア&シェル（CS）
- ・ テナント：（TI）
- ・ 新築ビル（NC）

- ・ 認証カテゴリー

- ・ シルバー認証、ゴールド認証、プラチナ認証
- ・ **7分野102項目**(うち必達41項目)
- ・ 空気、水、食べ物、光、フィットネス、快適性、マインド

- ・ 思想的背景

- ・ マインドフルネス（受容と平穏な精神）
- ・ バイオフィリア（生命愛）

「従来の人間工学的なアプローチと異なり、身体的な健康のみならず精神的な健康状態にも留意している点が特徴として挙げられる（CBRE奥練太郎）」

WELL

マインド

MIND

快適性

CONFORT

フィットネス

FITNESS

光

LIGHT

食べ物

NOURISHMENT

水

WATER

空気

AIR



WELL配点

MIND

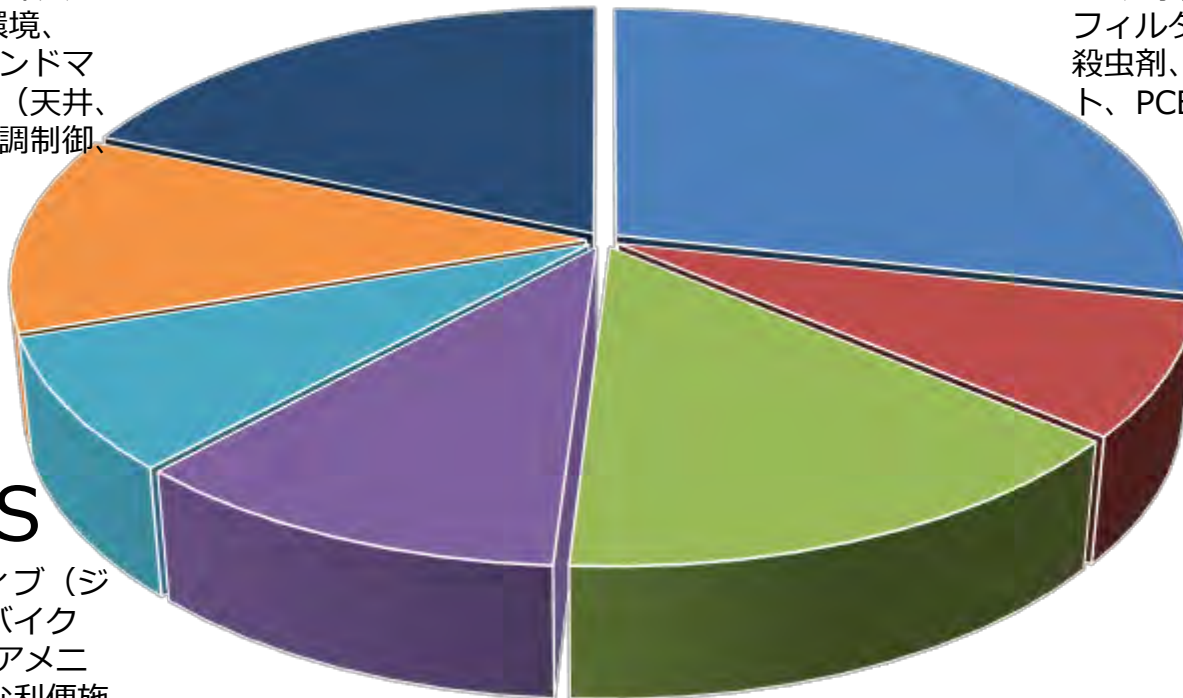
WELLガイド、メンタル・フィジカル図書、アンケート、バイオフィーリア、プライバシー、収納、昼寝（スリープサポート）、出張配慮、産休、育休、介護、授乳時間、体調管理センサー、チャリティー参加、製品情報、材料と資源、天井高、アート作品、革新的特性

AIR

ホルムアルデヒド、トータルVOC、PM、禁煙、換気、CO2濃度、フィルター、カビ、入口、清掃、殺虫剤、除草剤、農薬、アスベスト、PCB、湿気、気密性

WATER

水質、水分摂取



LIGHT

ライトデザイン、サーカディアン、照明・日照グレアコントロール、色温度、反射、自然光、窓開口

NOURISHMENT

果物・野菜摂取、添加物、トランス脂肪酸、アレルギー、手洗い、保存、レスポンシブル農業、内容情報、適量、菜園、食習慣、食事スペース

COMFORT

障害者アクセス（ADA）、人間工学（PC・机・イス高）、騒音、温熱環境、臭気、反響音、サウンドマスキング、反響防止（天井、壁）、防音、個別空調制御、輻射空調

FITNESS

階段、インセンティブ（ジム会員、レース、バイクシェア）、歩行者アメニティ、公園、多様な利便施設、自転車、シャワー、ロッカー、エクササイズスペース、マシン、スタンディング・デスク

LEEDとWELL

- LEEDは、**環境保全を市場価値に換算**することで動機づけ。
- 重視されること
 - **定量**評価
 - 性能情報の**透明性**
 - **認証**の第三者性（GBCIによる審査・認証）
- LEEDとWELLは
 - **ESG投資**の価値観にフィット
 - 責任投資原則に基づく、投資家と企業の対話の中で有効な根拠。
（コーポレートガバナンスコード（CBC） スチュワードシップコード（SSC））
- LEEDの開発・運用 : **USGBC** (US Green Building Council)
- WELLの開発・運用 : **IWBI** (International Well Building Institute)
- LEEDとWELLの第三者認証審査機関 : **GBCI** (Green Business Council Inc)

環境

健康

LEED

WELL

Global
(US)



CASBEE

働きやすいビル認証?

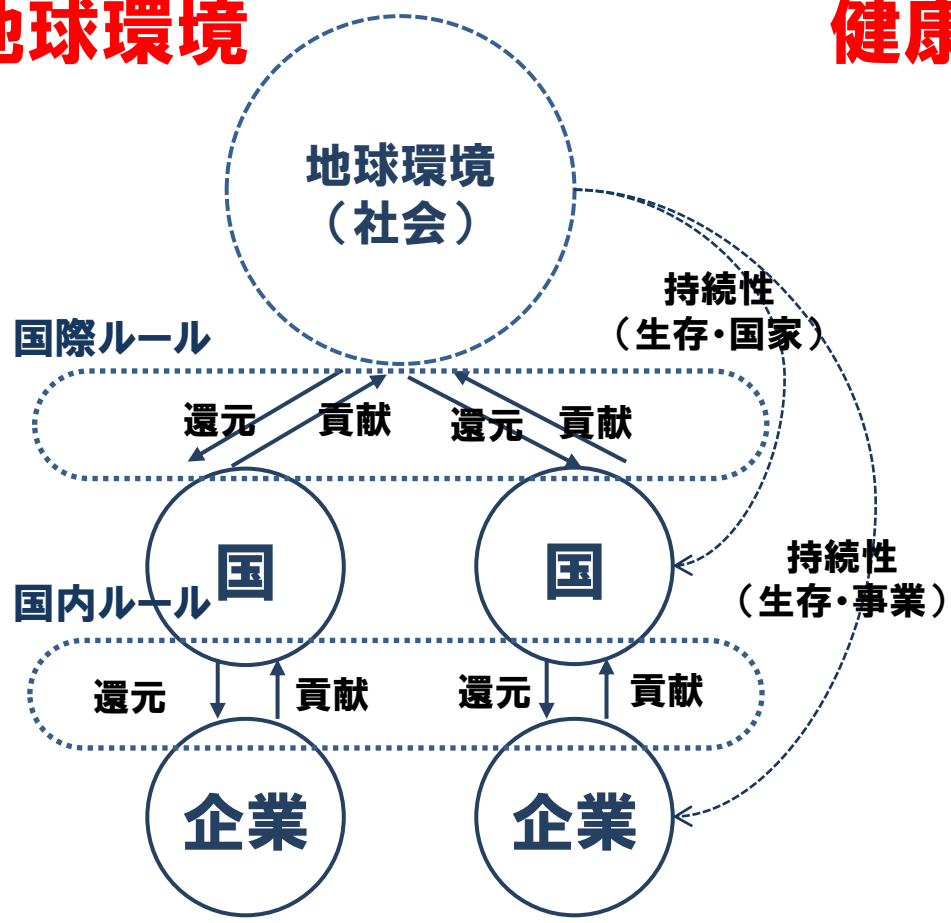
JAPAN



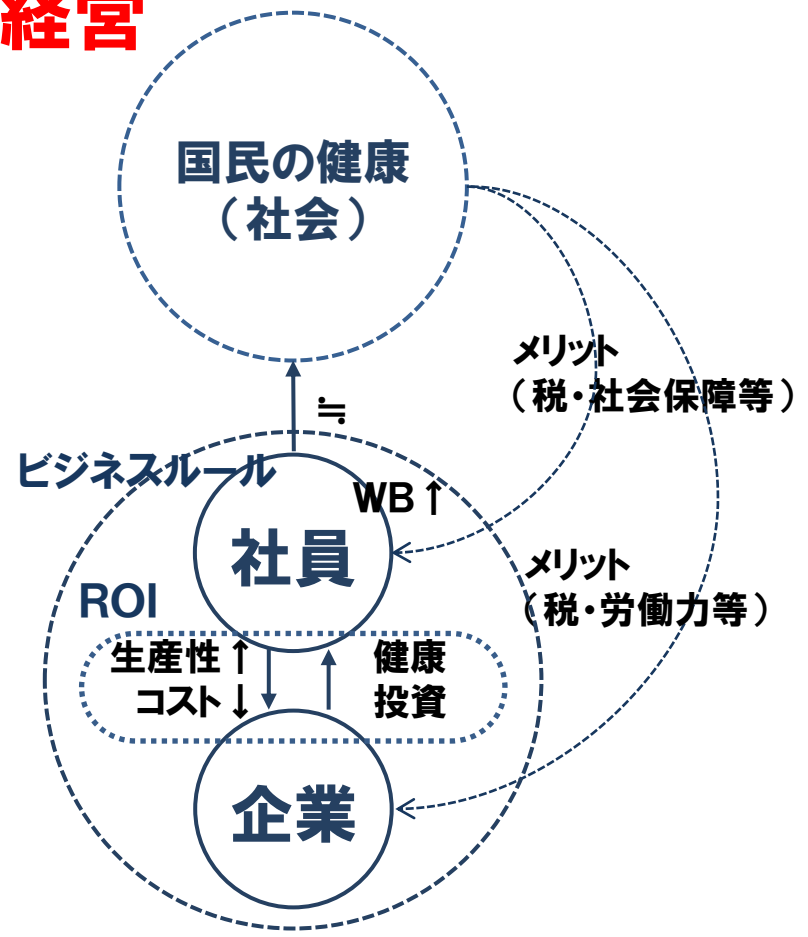
「環境」と「健康」の比較

- ・ 環境が科学的因果関係を証明し、企業や人の行動に結びつけるルールが必要。
- ・ 健康は、企業が社員の健康に投資することで、ビジネス上の直接的なベネフィットを得ることができる。

地球環境



健康経営



JFMA **健康経営**タスクフォース

(成田専務理事、斎藤敦子・重綱鉄哉・仲田裕紀子・高原良・似内志朗)

- **健康経営は、人間と経営のためのファシリティマネジメント**
- **健康経営3つの視点(経営・人・社会)**
- **健康経営の構造仮説**

健康経営タスクフォース2016～17

人間と経営のためのファシリティマネジメント

健康経営へのシフト 健康経営視点から再定義するワークプレイス(4講演) 2015.11.28

JFMAフォーラム2016 健康経営パネルディスカッション
健康経営へのシフト(3講演+ディスカッション) 2016.2.25

JFMAフォーラム2017 健康経営パネルディスカッション
近未来スタンダード ～立ち仕事のすすめ～ (3講演+ディスカッション) 2017.2.24

JFMA 健康経営シンポジウム2017 18人の専門家・実践者

- 第1回 なぜ健康経営が必要なのか(4講演+ディスカッション) 2017.8.5
- 第2回 健康経営を「人」の視点から検証する(3講演+ディスカッション) 2017.9.16
- 第3回 国内外オフィス家具メーカーの取り組み(4講演+ディスカッション) 2017.10.7
- 第4回 健康経営の先進企業の取り組み(3講演+ディスカッション) 2017.11.11
- 第5回 健康経営を実現する健康建築・ワークプレイス(3講演+ディスカッション) 2017.12.9



第1回 なぜ健康経営が必要なのか 2017.8.5

● 全体趣旨説明

成田一郎 JFMA専務理事

● 講演

1. 健康経営の推進に向けて

小林耕太 経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課

2. 健康経営を生み出す場の力

経営・人・社会の視点から健康経営の構造を解く


似内志朗 JFMA調査研究委員長、日本郵政不動産企画部長

3. ワークサイズ・健康経営研究

高原良 イトーキR&D戦略企画部Ud&Eco研究開発部

4. シニアワーカーの活躍を支援するために

足立研 日本経済社経営企画室長

- 
- ・健康経営の経営にとってのメリットは計り知れない。
 - ・健康経営におけるファシリティマネジメントの役割は大きい。
 - ・シニアワーカーの成長がないと日本が成長しない。

第2回 健康経営を「人」の視点から検証する 2017.9.16

●全体趣旨

齋藤敦子（JFMA広報委員長、コクヨワークスタイル研究所）

●講演

1. 健康経営への取り組み

浅野健一郎（フジクラ 健康経営推進室副室長）


2. 人工知能はビジネスをどう変えるか(ハピネス論)

矢野和男（日立製作所理事・技師長、東京工業大学特定教授）

3. ポジティブ・メンタルヘルスの立場から

西本真寛（Campus for H リサーチ・マネージャー）

●講演者によるパネルディスカッション

- 
- ・健康経営は、人(ハピネス)を中心に考える。
 - ・社員のハピネスはバイタルで計測でき、マネジメント可能。
 - ・組織のハピネスは生産性と相関関係が高い。投資すべき。

第3回 国内外オフィス家具メーカーの取り組み 2017.10.7

●全体趣旨説明

仲田裕紀子 JFMAジャーナル編集長

●講演

1. スチールケースの取り組み

伊藤政人 日本スチールケース株式会社 セールスマネージャー

2. ハーマンミラーの取り組み

松崎勉 ハーマンミラージャパン株式会社 代表取締役社長)

久保田彩 同 ディーラービジネスマネージャー

3. ヴィトラの取り組み


片居木亮 Vitra 株式会社 代表取締役

4. オカムラの取り組み

武田浩二 岡村製作所 マーケティング本部次長

5. 内田洋行の取り組み

中家良夫 内田洋行健康保健組合 事務長

- 
- ・ウェルビーイングが、企業の収益性を左右。
 - ・人から創造性、生産性を引き出すためのエルゴノミクス
 - ・社員がストレスフリーとなれば、組織の利益率は47%アップ

第4回 健康経営の先進企業の取り組み 2017.11.11

● 全体趣旨説明

重綱鉄哉 JFMA教育研修委員長、イトーキ企画本部長室室長

● 講演

1. 総務省の取り組み

松本惇 総務省行政管理局 企画調整課 副管理官

2. スクウェア・エニックスの取り組み


岡田大士郎 スクウェア・エニックス 総務部長

3. マースジャパンの取り組み

常木一成 マースジャパンリミテッド マースドリンクス代表

4. シマノの取り組み

神保正彦 シマノ バイシクルコンポーネンツ事業部企画部長

- 
- ・画一的でない組織の特質を活かした取り組み。
 - ・紙吹雪文化の中央官庁で革新的なワークプレイス改革。
 - ・場を変えると人も変わる。ハピネスは企業業績につながる。

第5回 健康経営を実現する健康建築・ワークプレイス

2017.12.9

● 全体趣旨説明

似内志朗 JFMA調査研究委員長、日本郵政不動産企画部長

● 講演

1. 働き方が変わり街も暮らしも変わる中での性能評価の使われ方とFM活動領域

平松宏城 ヴォンエルフ代表取締役、GBJ共同代表


2. 働く人と企業、双方から求められる WELLワークプレイスとは

奥錬太郎 元CBRE Workplace Strategy Associate Director

3. 健康経営は都市空間と建築をどう変えるか？

黒木正郎 日本設計執行役員フェロー、東京建築士会副会長

● 講演者によるパネルディスカッション

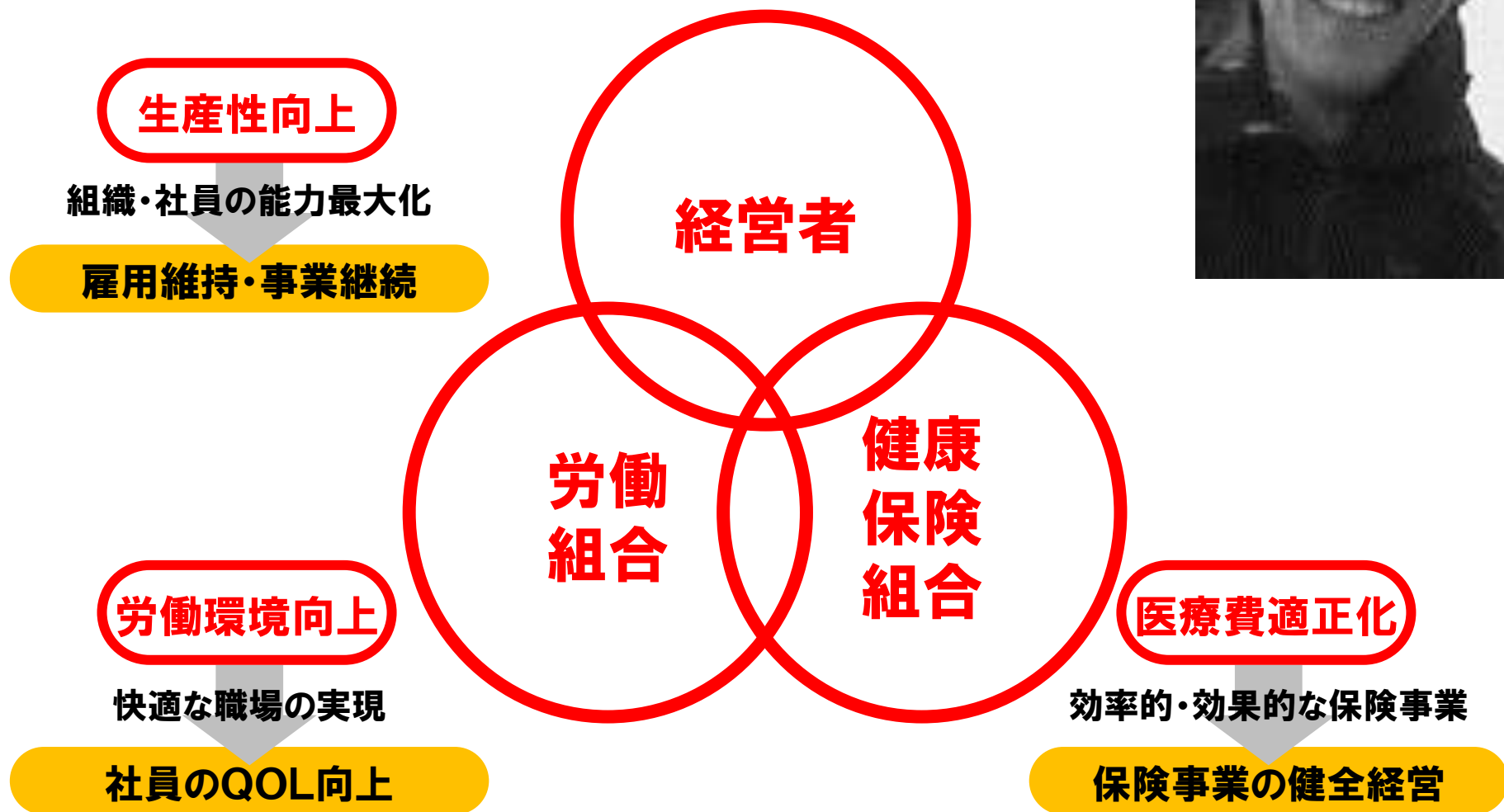
- 
- ・これからは都市間競争、ビル間競争、企業間競争。
 - ・環境と健康は次世代ビル、次世代都市の条件。
 - ・ESG投資の価値観にWELLやLEEDは親和性がある。

フジクラの計数管理・営業利益3倍以上

浅野健一郎（フジクラ 人事部健康経営推進室副室長）



- ・三位一体の健康経営への取り組み
「社員が生き活きと働いている会社の現実」



■社員の行動改善からはじめ、組織の生産性向上に結びつけた事例。

健康経営推進室

スタンディングデスク化



スタンディングデスクによる
立ち作業時間

5.5H/1日

健康測定ルーム新設



運用開始後
利用回数

48万回/延べ

健康意識向上

30%UP

1日の平均歩数

27%UP

血圧有リスク者数

20%改善

柔軟性

8%UP

下肢筋力

57%UP

腹囲低減効果

1.4倍

※1日の平均歩数が増加した人と
増加していない人との比較

うんてい利用率

22%

※FHAB+利用時

身体の動きの良さ実感

106%

※対実施前比

活性度

162%

※対実施前比

時間管理向上

109%

※対実施前比

集中力や感情コントロール力

107%

※対実施前比

事業成績

営業利益

≒510%

営業利益率

≒370%UP

※対実施前比

組織の
生産性
アップ

活性度アップ

健康度アップ

生産性への仮説検証モデル

オフィス環境改善 FHAB+新設



オフィス環境改善後
FHAB+利用率

41%UP

乳酸菌“しっ得”セミナー



**100
人超/1日**

漢方を知るワークショップ



**40
人超/1回**

ノルディックウォーキング



参加人数
**120
人超/延べ**

活動量普及率

89%

その他イベント開催数

**30種類以上
110回開催**

ジテ通(自転車通勤)プログラム



自転車通勤施策開催
4回開催

行動改善

テレワークにおけるFMの
あり方確立
健康経営の社会への普及
計測技術・項目の確立

自然と
活き活きする
文化へ

国内グループ会社
への展開
本株への
健康意識の普及
健康投資指標の策定

海外グループ会社
への展開
電子カルテ等との
データ連携
健康経営としての
財務指標相当の確立

職域における
[健康投資]市場
の創出

短期的 取組み

長期的 取組み

フジクラ作成資料より

職場のウェルビーイング

伊藤政人(日本スチールケース セールスマネジャー)

- ・社員が完全にストレスフリーとなれば、組織の利益率は**47%アップ**
- ・ウェルビーイングは**認知的、身体的、情緒的**ウェルビーイングに分類
- ・ウェルビーイング(幸せ)を「**社会とのつながりの質と量**」と定義
- ・ウェルビーイングの側面
 - ① **マインドフルネス**(今に全力を傾ける環境)
 - ② **本物**(**自分らしく**あること)
 - ③ **帰属意識**(他とのつながり)
 - ④ **楽観性**(創造性とイノベーション)
 - ⑤ **意義**(明確な目的)、
 - ⑥ **活力**
- ・ウェルビーイングが、**企業の収益性**を左右。



アイディアの時代のエルゴノミクス

松崎勉・久保田彩(ハーマンミラー・ジャパン 代表取締役社長・エルゴノミクス担当)

- ・今は「アイディアの時代」
- ・人から創造性、生産性を引き出すために**エルゴノミクス**に取り組んできた。
- ・**身体的エルゴノミクス** : アイディアの時代に相応しいチェア等のデザインへの変化、座ることのリスクファクターを減らすチャレンジ。
- ・**組織的エルゴノミクス** : 生産性の鍵となる熱中とコミュニケーションを高めるためリビングオフィスというプロジェクト、10の重要要因からワークプレイスづくり手法
- ・**認知的エルゴノミクス** : アイディアの質と量を生む障害要因排除、ワーカーの選択の自由、ワーカー自身の意見をよく聞くことが重要。



ハピネスの視点

矢野和男（日立製作所 理事、東京工業大学大学院特定教授）



- ・AIが社会の在り方を変える。これは確実に起こる未来だ。
 - ・従来「ルール(過程)指向」が、目的重視「アウトカム(目的)試行」に変わる。
 - ・目的だけ設定すればプロセスは人間よりAIが遥かに正確にソリューションを導く。
 - ・人間の「最終的なアウトカム(目的)」は何か。「ハピネス(幸福感)」だろう。
-
- ・生産性に目を向ければ、組織のハピネスは生産性向上にクリティカル。
 - ・かつて生産性向上と言えば効率化だったが、知的生産性を価値の源泉とする今、組織のハピネスこそが生産性と相関関係が高い。
 - ・ハピネスと生産性の関係を掴むことは、ビッグデータから容易に可能。
 - ・その因果関係は今後の研究。
-
- ・人のハピネス(幸福感)は、50%が遺伝要素、40%が習慣、10%が環境。
ソニア・リュボミルスキ(UCLA)
→40%を左右する習慣を変えると、人のハピネスが増す。
→ハピネスを増やす習慣とは、活発度であり、腕の加速度計で計測可能。
→いくつかの実験で、活発度は生産性・創造性に大きな相関関係がある。
→つまり、活発度向上は、①個人のハピネス、②企業の生産性の両方に寄与。



矢野和男
日立製作所理事
東京工業大学大学院特定教授



ソニア・リュボミルスキ(UCLA)



総務省の取り組み

松本 惇（総務省行政管理局 企画調整課）



- ・総務省行政管理局で、霞ヶ関初の徹底的なオフィス改革。
- ・まず働き方改革とは何か？を突き詰めて考える。
- ・残業をなくすだけでは、個人のプライベートタイムは確保できるかもしれないが、仕事の質を犠牲にしかねない。
ワークライフバランスと言っても、仕事の充実感を犠牲にしては生き甲斐なし。
- ・仕事の質を上げつつ、非効率とムダな手間を徹底的に下げるBPRの工夫。
- ・オフィス改革はその先にあるもの。
- ・お仕着せやアリバイ的な働き方改革、オフィス改革とは全く異なったもの。
- ・オフィス改革自体が若手職員の発案からスタート。
- ・いまや、野田聖子大臣が旗を振り、総務省の一大プロジェクト。視察者も多い。
- ・全国自治体、省庁、韓国政府、学会等に影響を与え始めている。
- ・机上の空論ではなく、必然性に基づき、試行錯誤を繰り返した本物のオフィス改革。
- ・「場」が変わっただけではなく何も変わらない。真の仕事への意識改革が必要。

シマノの取り組み

神保正彦(シマノ バイシクルコンポーネンツ事業部企画部長)

- ・人と自然の触れ合い(closer to nature, closer to people)をミッション
- ・社員の多くは自転車通勤で、駐輪場、シャワー施設など完備。
- ・**自転車通勤は健康に著しく良い影響**を与える。
- ・3か月自転車通勤をすると7%体重減少、4%体脂肪率減少。
- ・シマノとフジクラの共同研究で、**労働生産性の差が実証**。**メンタルへ好影響も実証**。
- ・健康経営が言われる前から取り組みをしてきた筋金入りの企業。
- ・自転車を通じ社会とつながり、健康とつながり、暮らしとつながる。
- ・自転車は日本を救う。



なぜ自転車運動がいいのか？

適正な運動強度を実現
脂肪燃焼・体力向上

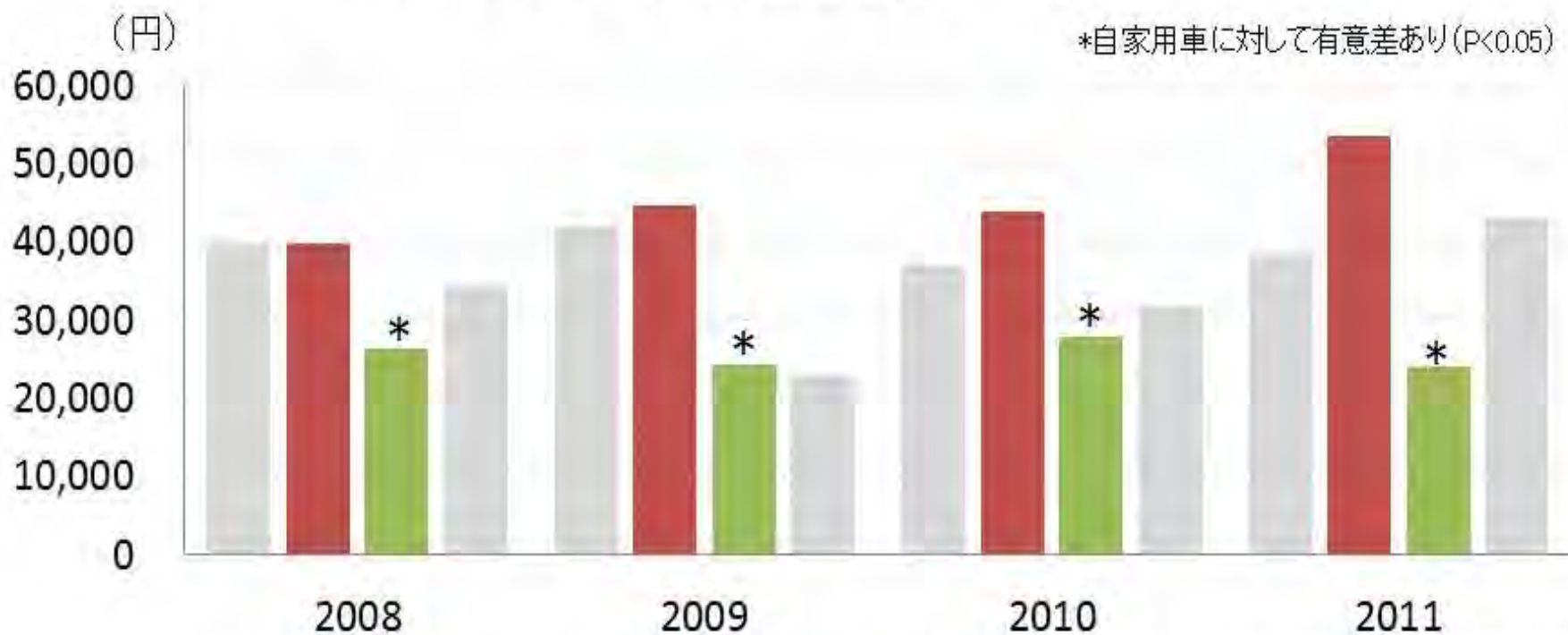
脚・体幹の筋を動員
筋力の維持・増強

気分の向上
メンタル状態の改善



2008-2011年度の医療費データの比較

*自家用車に対して有意差あり(P<0.05)



公共交通機関

自家用車

自転車(ヘルメットあり)

自転車(ヘルメットなし)

2011年 シマノ/国立健康栄養研究所
※歯科関連の医療費は除く

働き方が変わり街も暮らしも変わる中での 性能評価の使われ方とFMの活動領域

平松宏城(ヴォンエルフ代表取締役、グリーンビルディングジャパン共同代表理事)

- ・グローバルなビル評価基準になりつつあるLEEDとWELL。
- ・熾烈な都市間競争、都市の中でのCBD間競争の中で、環境性能や健康性能が企業からも社会から求められるようになってきた。
- ・**環境LEED**の次は**健康WELL**、この二つはセットとして考えられる。
- ・西洋医学と東洋医学的アプローチからウェルビーイングを支える。
- ・**利他主義**、**バイオフィリア**、**マインドフルネス**などの価値観が底流にある。

- ・**グーグル**、**アップル**などの先進企業では**LEED取得は当然**。企業の価値観と一致。
- ・グーグルの計画中のロンドンプロジェクトは、**ビヤルケ・イングレス**の企画。
- ・スカイスクレイパーならぬランドスクレイパー(高層ビルを横に倒したような形)。

- ・世の中は**ヒトの働きやすさ**を中心とした方向に流れている。
- ・金融面では、**長期的価値の発現する街にESG投資は集まる**。
- ・これから社会をより良いものにしていくために何をすべきか。



働く人と企業双方から求められるWELLワークプレイスとは

奥錬太郎 (CBREワークプレイスストラテジー アソシエイトディレクター)

- ・近年のWELLの広がりには3つのドライバーがある。
 - ・ミレニアム世代対応
 - ・人材獲得競争
 - ・ウェルビーイング
- ・特筆すべきはミレニアム世代の価値観への対応。
1980から2000生まれの世代は、例えばシリコンバレーでの成功した起業家でも大きな車や家に住まない。物質的所有に見栄を張らない。
人とはフラットな関係を求め、健康な生活に関心が深い。
- ・こうした世代では当然にWELLに関心が高い。
- ・この世代が世の中の中心になるならば、建築やワークプレイスも変わっていく。
- ・WELL導入は企業の負担が大きく、
一見非効率だが、投資体効果は大きい。
- ・今の働き方改革の流れで変わっていくだろう。



健康経営は都市空間と建築をどう変えるか

黒木正郎(日本設計執行役員フェロー／東京建築士会副会長)

- ・そもそも建築や空間は人を変えうるのか。
- ・学校の校舎を変えると偏差値が上がる。区役所を建てかえると就職希望者が増加。
→建築は人の行動や心の持ちよう(誇りと自信)に潜在的な大きな力を持つ。
- ・チャーチルの言葉 「建築をつくるのは我々だが、将来、建築が我々をつくる」
- ・働く場は働き方を変えるか。
- ・オフィスは100年前に効率的事務処理のために原型が作られたが、現代は作業場から、知的創造の為のアトリエに変わりつつある。
- ・クリエイティブワーカーは都市や建築の何を変えるか。
- ・用途主義がなくなり、多様な混在空間になるだろう。元々、住むと働くは一体。
- ・今は建築基準法上、何らかの用途に特定しないとならない。
- ・多様で柔軟な用途の概念が必要だが、建築基準法では全くの想定外。
- ・人の求める都市空間と建築が、都市間競争の時代には必須だ。

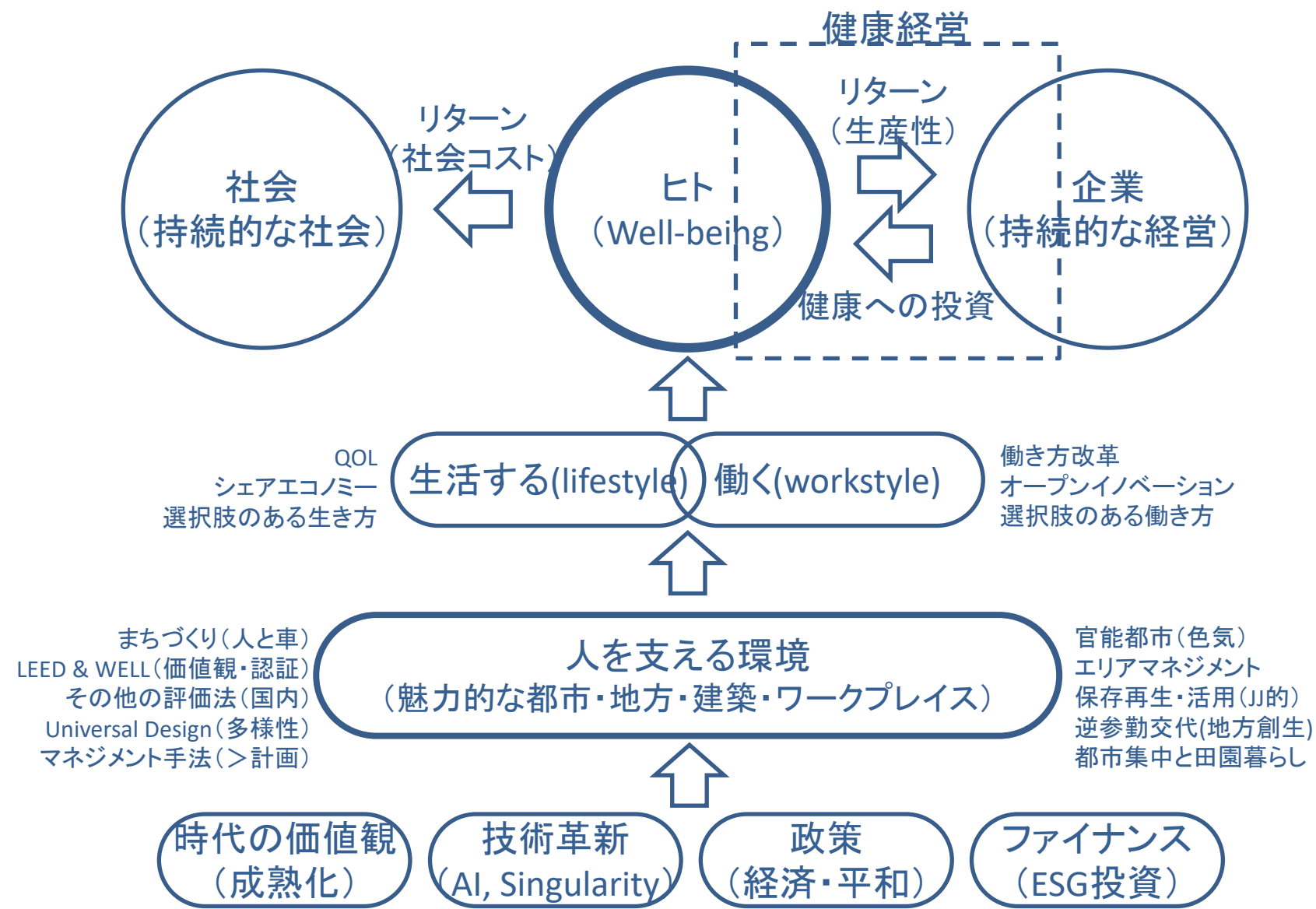


企業・社会・ヒト3つの視点(JFMAのスタンス)

- ・健康経営は、**経営資源としての人(ワーカー)への投資**であり、**経営視点に重き**。
- ・その明快さが、義務(コスト)である健康管理を超えた**投資としての健康経営の魅力**。
- ・**人(ワーカー)**は、アウトプットを出す単純なマシンではなく、
身体的・心理的、短期的・長期的、様々な要素が生産性に影響を与える。
- ・身体的要因・精神的要因・社会的要因から成る、
人の**ウェルビーイング・ハピネス(幸福感)**がポイントとなる。
- ・**社会の視点**を加えたい。
健康経営は経営とワーカー(人)の関係だけではなく、
社会が、経営にも人にも影響を与える。
医療・介護保険税負担、国民QOL(生活の質)、労働力供給といった、
健康経営がもたらす**社会のメリット**(社会的共通資本)が、
長期的に経営や人へメリットとして還元される。
- ・経営・人・社会の3つの視点を、
健康経営時代の建築・ワークプレイスの在り方を論ずる基本としたい。

健康経営・ウェルビーイングの構造

これまで健康経営について語られてきた常識とは異なる、①健康とウェルビーイングをめぐる人・経営・社会の関係、②生産性・創造性へのベネフィットの発見。



健康経営の構造

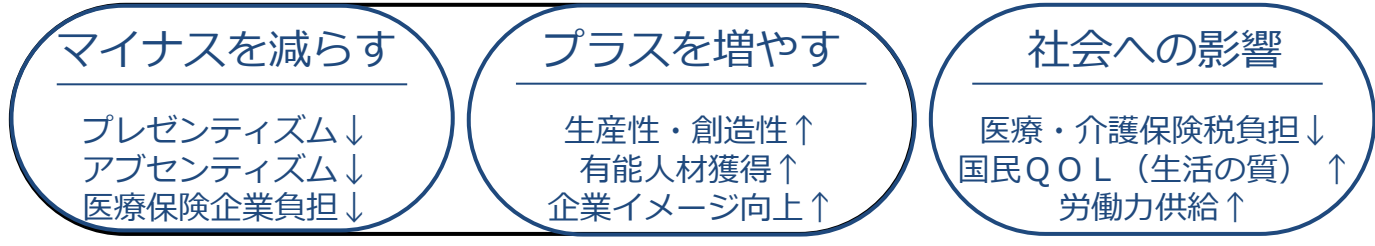
企業価値

企業価値・社会の幸福



健康経営

企業組織・社会への効果



個人の幸福度と生産性の相関関係

ウェルビーイング

個人の幸福度・健康度

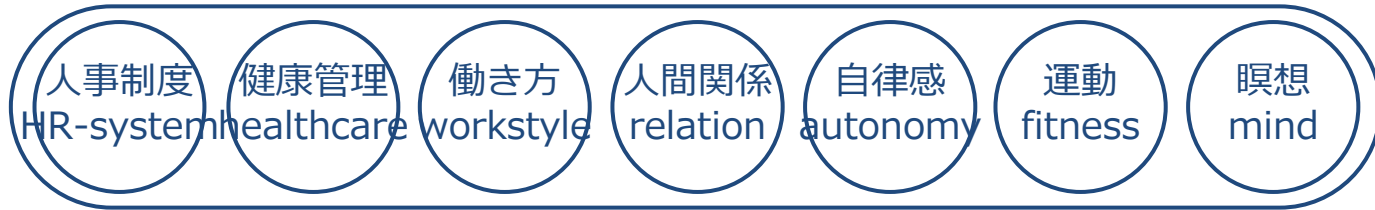


自律的な働き方が健康につながる

人間要因

(人)

自律的・生産的なワークスタイル
内的環境づくり

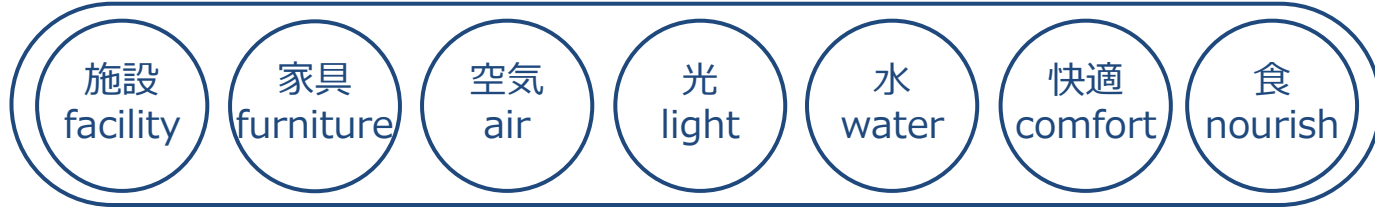


環境要因

(場)

ワークプレイスの選択肢・柔軟性
外的環境づくり

働く場の選択肢・柔軟性が自律的働き方へ



企業アンケート2017

- JFMA会員、送付1200、回答数92
- 経営者19.6%、管理職47.8%、一般32.6%

アンケート調査結果

■ アンケート内容とアンケート結果について (2017.7)

JFMA会員、約1200名に送付、アクセス数 (見てくれた人) 234名、**回答数92名**

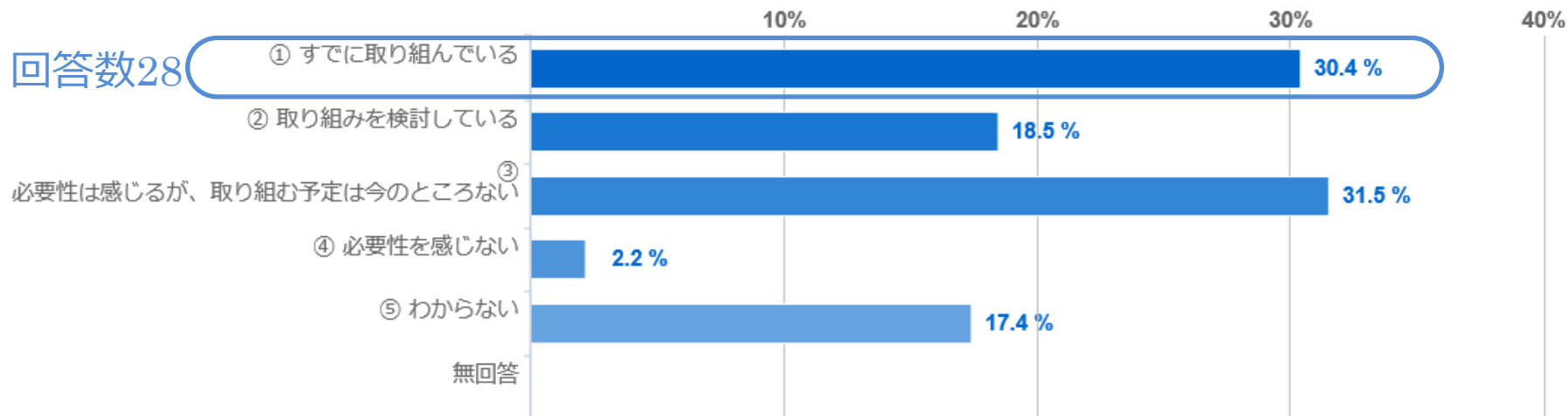
回答数92の内訳

- ・ 30歳代12.0%、40歳代39.1%、50歳代35.8%、60歳代以上13%
- ・ 男性89.1%、女性10.3% 在東京56.5%、大阪6.5%
- ・ 官庁・公共19.6%、ファシリティ7.6%、製造10.9%
- ・ 経営・経営企画21.7%、総務・FM29.3%、営業17.4%、設計12%
- ・ 経営者19.6%、管理職47.8%、一般32.6%

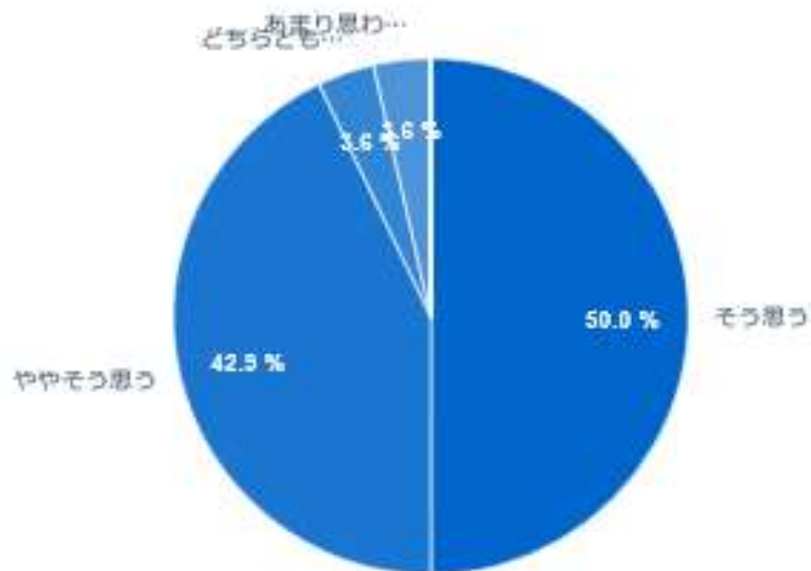


アンケート調査結果

Q1 あなたが所属する組織の「健康経営」に対する取組み状況



企業として健康経営に取組む姿勢を、**従業員に発信**している（回答数28）

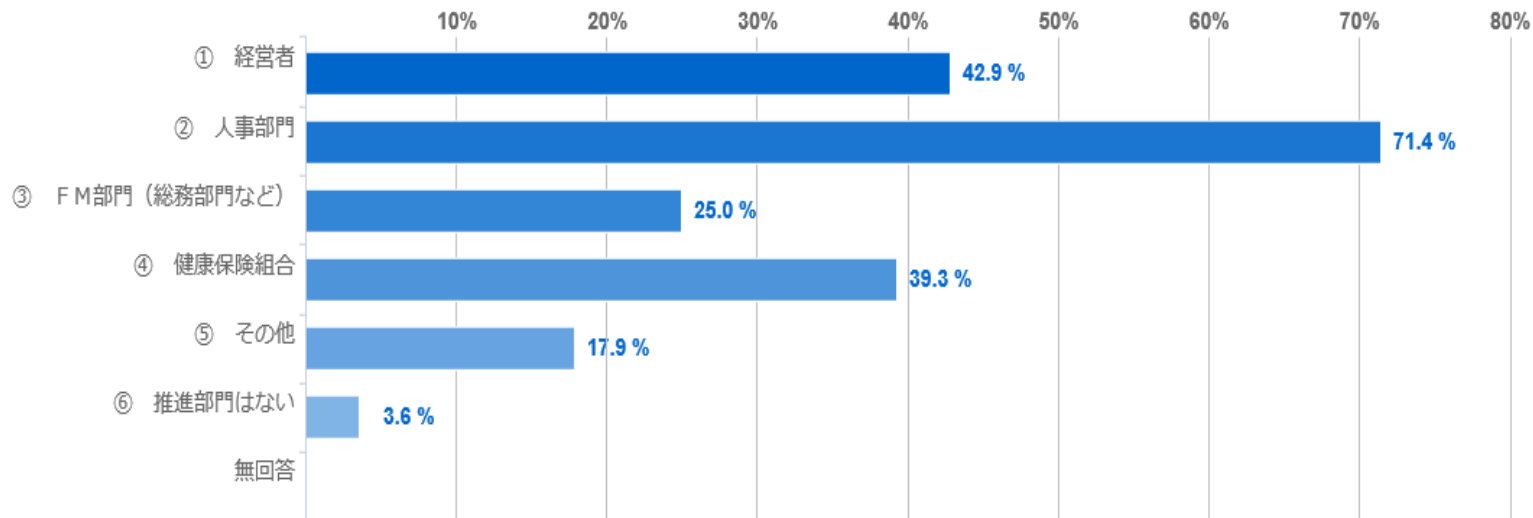


企業として健康経営に取組む姿勢を、**社外に対し発信**している（回答数28）

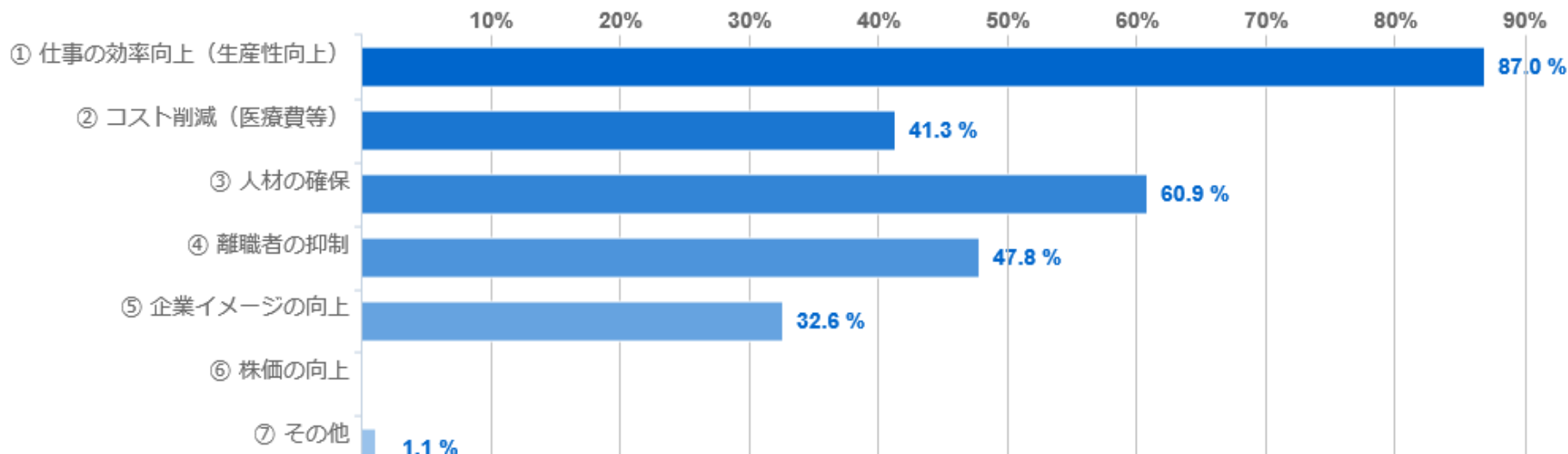


アンケート調査結果

所属する組織において、「健康経営」へ主体的に取り組んでいる**推進部門**として該当するものすべてをお選びください（回答数28）（「すでに取り組んでいる」を選択した方のみ）

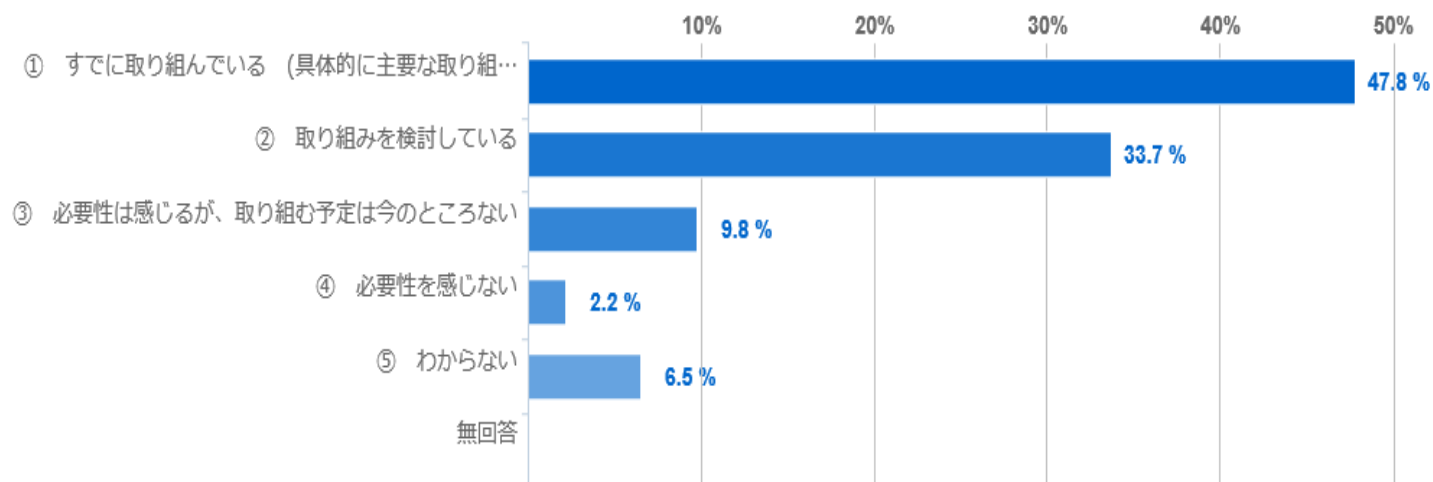


「健康経営」を通じて、あなたの所属する組織に**どのような効果**がもたらされることを期待しますか。優先度の高い項目を3つお選びください（回答数92）

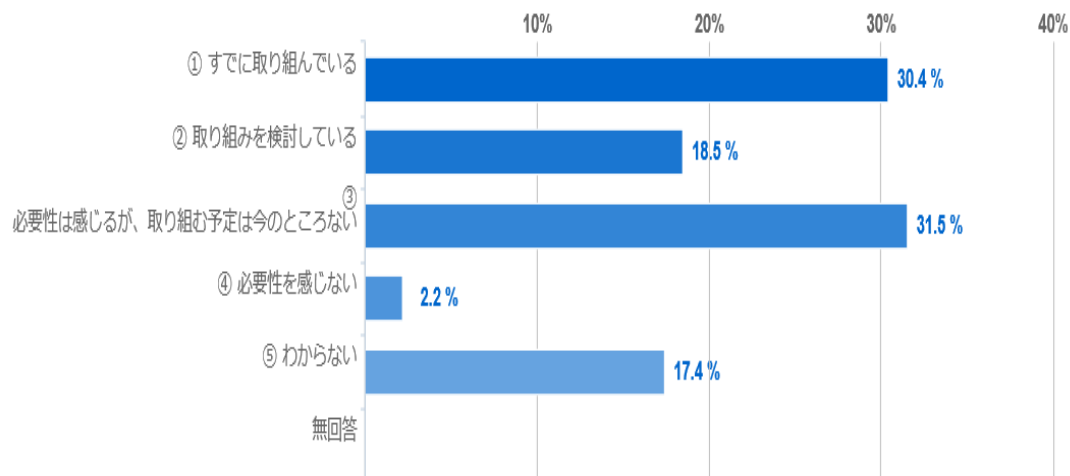


アンケート調査結果

あなたが所属する組織の「働き方改革・ワークライフバランス」に対する取組み（回答数92）

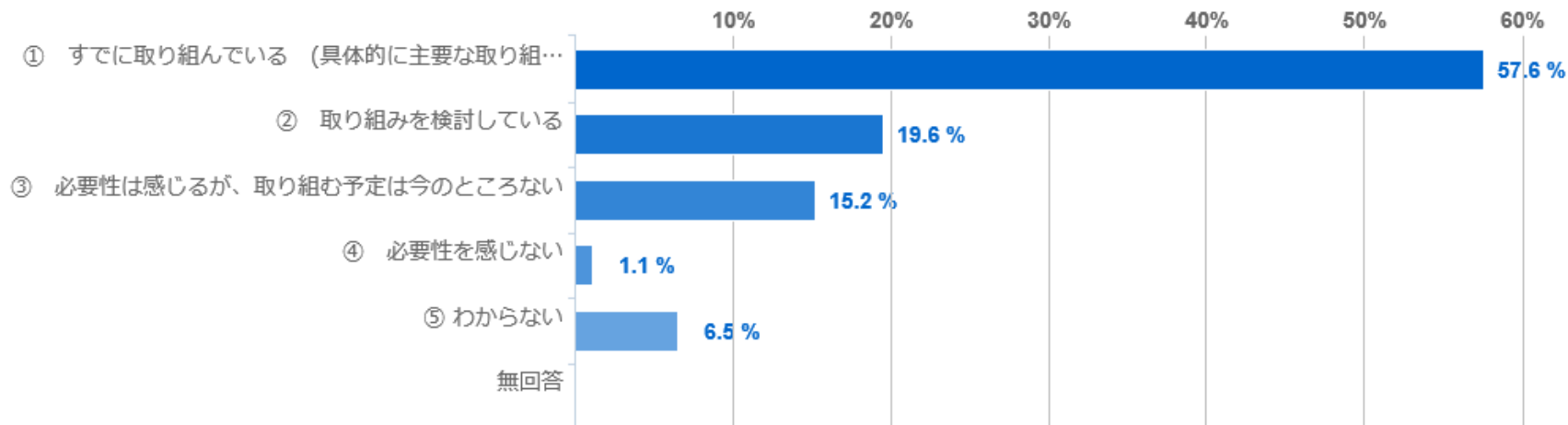


あなたが所属する組織の「健康経営」に対する取組み状況（回答数92）

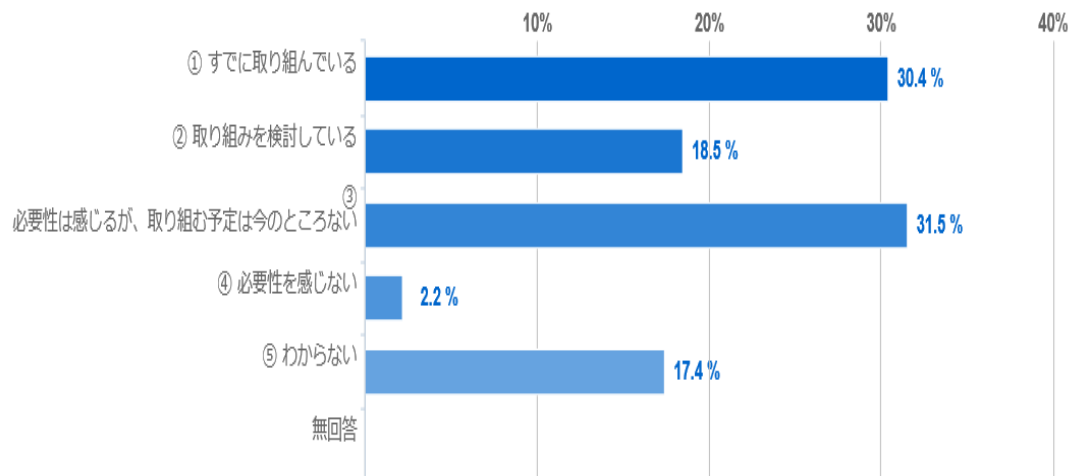


アンケート調査結果

あなたの組織のオフィスにおける「地球環境保全」に対する取組み（回答数92）

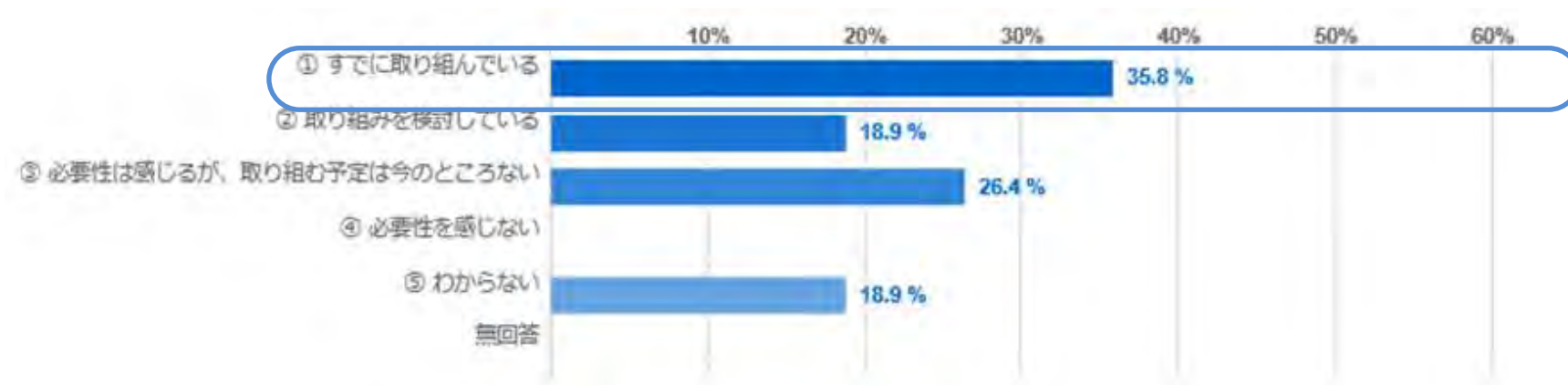


あなたが所属する組織の「健康経営」に対する取組み状況（回答数92）

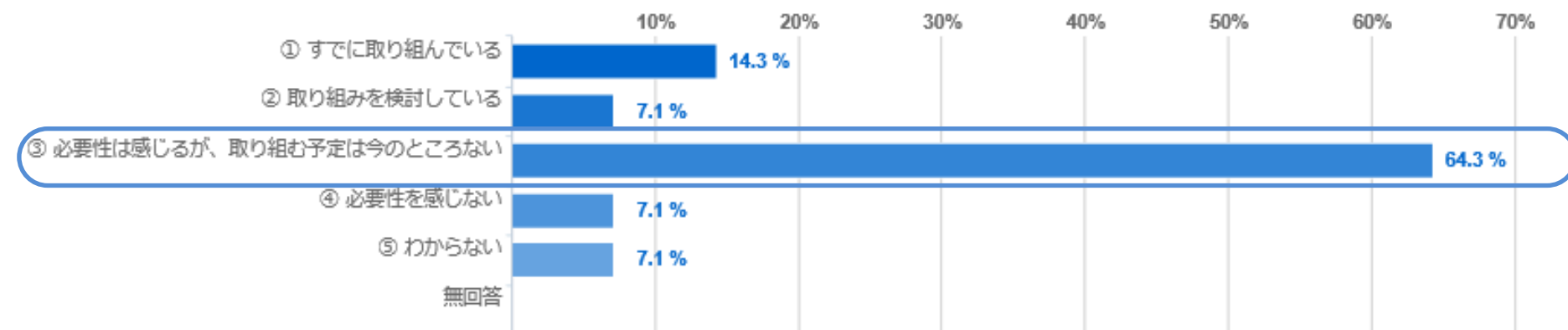


アンケート調査結果

「地球環境保全」に「すでに取り組んでいる」組織の健康経営に対する取組み（回答数92）



「地球環境保全」に「必要性を感じるが取組み予定がない」組織の健康経営に対する取組み（回答数92）



アンケート調査結果

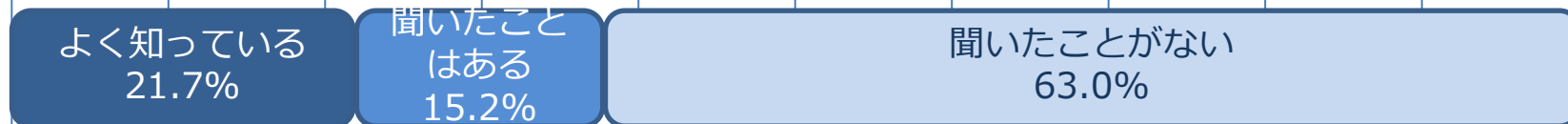
経済産業省等による「健康経営銘柄」



経済産業省等による「健康経営優良法人（ホワイト500）」



アブセンティズム（疾病などによる欠勤）という言葉



プレゼンティズム（出勤していても、健康問題による生産性低下）という言葉



アンケート調査結果

健康経営企業を、**公共調達で優遇**する検討が行われていること



椅子に座って長時間仕事をすることが健康に影響を与えること



社員の健康への**投資効果は、投資額の3倍程度**あるという研究結果があること

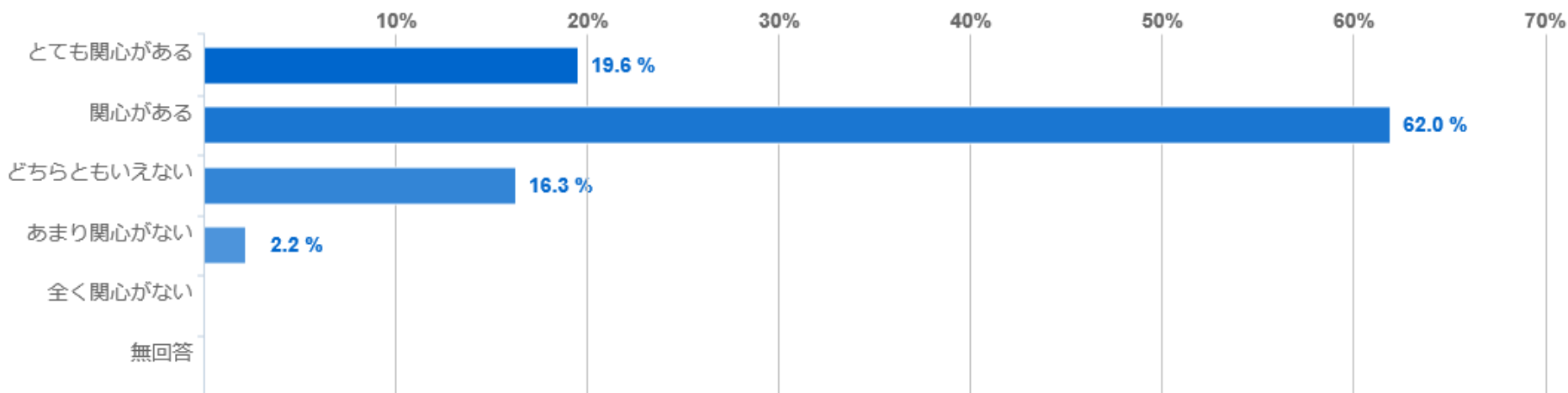


WBS (ウェル・ビルディング・スタンダード) という健康に良いビルの国際基準があること

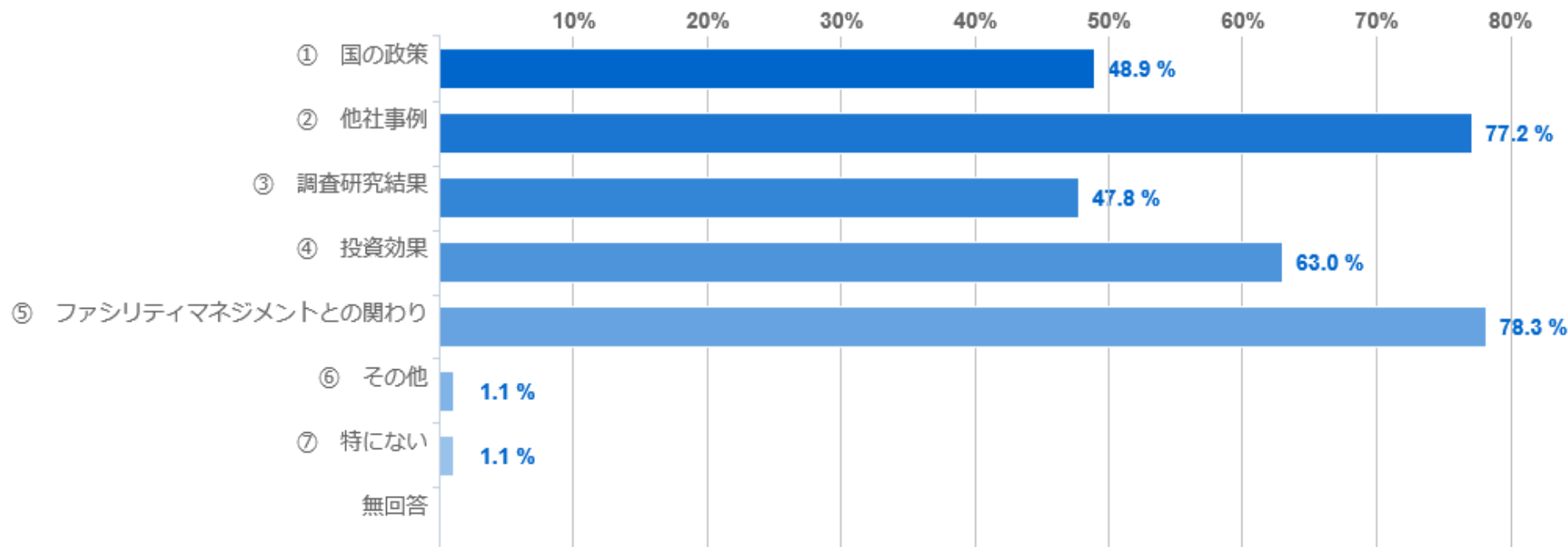


アンケート調査結果

あなたは、健康経営に関心がありますか。（回答数92）



健康経営に関して、あなたが知りたいものを全てお選びください。（複数選択）



まとめ

- 社員の健康への**投資対効果のエビデンス**が明らかになりつつある。
企業のメリットの大きさが認知されはじめ、大きな潮流になっている。
- **政府(特に経産省)の働き方改革**が、健康経営推進の後押しをしている。
- **「人」と「場」の良い相互関係**が、心身の健康、生産性向上、創造性につながる。
- **ワーカーの幸福(ウェルビーイング、ハピネス)向上**は生産性向上に極めて重要。
- 健康経営の視点は、ABW(activity based working)など、**ワークスタイルを変える**切っ掛けとなりうる。
- **経営**視点に加え、**ヒト**主体のウェルビーイングの視点、**社会**の視点が不可避。
- 健康経営は**社会への好影響**(社会的共通資本の増大等)も期待。
- 近年、企業の非財務情報(ESG情報)への投資家の関心が高まり、わかりやすい健康経営の**アウトカム指標(KPI)の必要性**が高まる。
- **ウェル認証(Well Building Standard)**が、グローバルに認知されはじめており、建物・ワークプレイスの評価基準として有力。一方、国交省で国産基準作りの動き。
- WELLとLEED認証のように、次世代ビルの要件として**「健康」と「環境」が次世代ビルの要件としてセット**として求められる傾向。ESG投資の価値観にもフィット。



ご清聴ありがとうございました

UD研究部会＋健康経営タスクフォース

似内志朗(日本郵政)